

## TDAMマーケットレポート 「国内株式市場の大幅下落について」

### <市況>

3月12日の国内株式市場では、日経平均株価が前営業日比856.43円安の18,559.63円で取引を終えました。

同日の下落率が前営業日比で約4.4%の下落、年初来では約21.5%の下落となりました。

個別銘柄では、川崎汽船（前営業日比約12.3%下落）、リコー（同約10.4%下落）、三井E&Sホールディングス（同約10.0%下落）などが相対的に大きく下げました。

セクター※別では、海運業（同約8.2%下落）、空運業（同約6.3%下落）、鉱業（同約5.9%下落）などが下げを主導しました。

※セクターは東証33業種分類

### <背景>

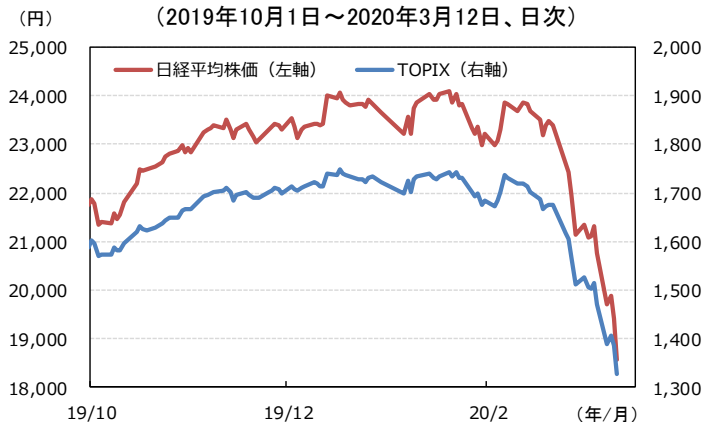
3月12日の国内株式市場の下落には、主に以下の要因があげられます。

- ・ 前日に世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスは「パンデミック(世界的な大流行)」であると宣言し、世界経済への影響が懸念されたこと
- ・ 前日に米国株が大幅安となり、東京時間の本日の午前中に発表された米国の新型コロナウイルス対策が期待外れとなったこと

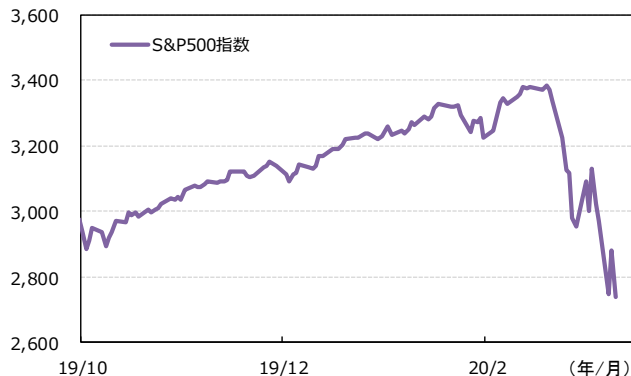
### <今後の見通し>

トランプ大統領が欧州から米国への渡航を制限すると表明したことで、今後、欧米経済をどの程度冷え込ませるか、より一層見通し難い状況となりました。こうした移動の制限は個人の消費動向、企業景況感や投資活動へ重しとなり、米国経済のみならず世界経済が減速する可能性は高くなると思われます。このため、目先は不安定な相場展開の中、更なる株価下落の可能性もあります。しかしながら、長期的な視点に立てば、効果的な治療法の発見などにより、新型コロナウイルスの感染は次第に終息に向かうものと考えられます。感染が終息に向かうことで市場の動揺は沈静化し株価も持ち直しに向かうとみています。

日経平均株価とTOPIXの推移  
(2019年10月1日～2020年3月12日、日次)



S&P500指数の推移  
(2019年10月1日～2020年3月11日、日次)



出所：日本経済新聞社、東京証券取引所、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス、FACTSET、Bloombergのデータをもとに、T&Dアセットマネジメントが作成  
日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は日経平均株価を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延又は中断に関して責任を負いません。  
本資料中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。  
また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。